

「漱石文学の女性像—その愛」

漱石文学の世界で見る女性たちとは？河原先生の朗々とした語り口でお楽しみください

漱石の時代、ようやく訪れた日本の近代にもかかわらず、女性たちは依然として旧来の倫理観が支配する世界に生きていました。

漱石文学の女性たちは、自我と個性を持ち、一貫して人間的な存在を主張しています。

今回はそんな女性たちが描かれた漱石作品を取り上げてみたいと思います。



日本文学研究者 かわはらとくこ 河原徳子さん

◆徳島市生まれ。三重県生涯学習センターが瀬戸内寂聴講演を企画した折、「瀬戸内寂聴文学へのいざない」連続3回講座を務める。以来12年間、生涯学習センターの講師を務める。四日市大学コミュニティカレッジ講師を経て、「朗読文学サークル パティオ」主宰となる。2008年より「源氏物語を原文で読む」講座をスタートさせる。三重県、愛知県で日本近代文学・古典文学の文学講師を務める。2014年に『となりの文豪』（風媒社）出版。斎藤緑雨文化賞受賞（2014年）。

【日時】 平成28年2月7日（日）10:00～12:00

【場所】 本町プラザ 2階 第1会議室

【定員】 60人（先着順 1/6（水）9:00より受付開始、定員になり次第締切り）

【料金】 無料

【託児】 有り（無料ですが、1/26（火）までに要申込）

【申込み・問合せ】 はもりあ四日市まで

TEL 354-8331 FAX 354-8339

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp（日・月・祝日休み）

駐車場は、本町プラザ駐車場（車高155cmまで）及び市営中央駐車場（市役所北隣）をご利用ください。無料駐車券をお渡しします。（それ以外の駐車場は有料になります）



この講座は、四日市市男女共同参画センター（はもりあ四日市）が企画・運営します。